

実践事例（３）

第３・４学年 国語科～同単元・同内容による「読むこと」の領域の実践～

１ はじめに

本校は、全校児童７名の極小規模校である。全校児童は大変仲がよく、休み時間にはみんなで一緒に遊ぶことが多い。

今年度は、６年生の在籍がなく、学級は３学級で、そのうち２学級が複式学級である。本学級は、３年生女子１名、４年生１名の２名で構成されている。国語科と算数科は学年別指導を行っており、その他の教科は同単元・同内容により指導を行っている。

今回は、複式学級における物語教材を「読むこと」の学習について、実践を紹介する。

２ 実践例（教育出版 １０月）

（１）単元名「一つの花」

（２）単元の目標

読むこと	<ul style="list-style-type: none">○ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。○ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。○ 物語を読み、感想を述べ合う。
※伝国	<ul style="list-style-type: none">○ 指示語や接続語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解し、使う。

※伝国とは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の略

（３）指導観

○ 本学級では、普段の国語科の授業は、学年別指導の複式授業形式で行っている。二人とも意欲的に学習に取り組み、物語を読んで、自分の感想を述べながら、学習を深めていくことができている。しかし、二人の学年が異なるため、友達との練り合いの場がとりにくい。自分以外の意見にも触れさせるため、ワークシートや教師との対話を用いているが、実際に同年代の友達の考えと自分の考えを比較させ、考えを深める活動を行うことが難しい。また、役割演技などの活動も国語の授業では、教師相手に行うことが多い。


○ 本教材は、戦争中の場面と、１０年後という結末の場面を比べて読むことで、登場人物の心情や願いをより深く捉えることができる。二つの場面を比べて読み、登場人物の思いや願い、中心人物の心情の変容などを理解する学習に適した教材といえる。

- 本時は、「一つの花」をゆみ子に渡し、その花を見つめながら何も言わずに行ってしまった父親の気持ちや願いを想像して読む、物語の山場になる場面である。今回は、複式学級による同単元・同内容指導により、日ごろ学年別学習のためできない話合いや共に表現活動を行う場を多く設定し、児童の考えの深まりを追求していきたい。
- 本校の研究主題は「主体的に学び、自分の思いを豊かに表現できる児童の育成」である。本単元は「読むこと」の学習で、登場人物の気持ちや願いを想像して読むようになっている。児童にとって、想像することやそれを言葉にすることは、難しいことではあるが、友達との話合いや音読劇等を通して、想像を広げる楽しさを感じさせたい。

(4) 単元の指導計画 (全9時間)

次	学 習 内 容	時間
第1次	○ 時代背景を理解するために「火垂るの墓」を読み、感想を発表し合う。 ○ 新出漢字を学習する。	1
第2次	○ 「一つの花」全文を読んで初発の感想をメモして紹介し合う。	1
第3次	○ 「一つだけよ。」と言い、ゆみ子になんでも分けてあげる母親の思いを読み取る。	1
第4次	○ ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする父親の思い、大事なお米で作ったおにぎりをみんなゆみ子に食べさせてしまった母親の思いを読み取る。	1
第5次	○ 「一つの花」をゆみ子に渡し、その花を見つめながら何も言わずに行ってしまった父親の気持ちや願いを想像しながら読む。	1 (本時)
第6次	○ 戦争中と10年後の場面の違いを読み取り、ゆみ子と母親がもつ父親への思いを想像する。	1
第7次	○ 「一つの花」と「一つだけの花」や「コスモスのトンネル」がどのようなことを表しているか、話し合う。	1
第8次	○ 3年生教科書の教材「わすれられないおくりもの」を読み、登場人物それぞれの願いや思いを受け止めて、各登場人物になったつもりで、あなぐまに教わったことを紹介し合う。	2

(5) 本時の学習

題 材	一 つ の 花	
目 標	○ 「一つの花」をゆみ子に渡し、その花を見つめながら何も言わずに行ってしまった父親の気持ちや願いを想像しながら読む。	
展 開		
学 習 活 動	指導上の工夫 (○教師の働き掛け ◎評価)	
1 学習課題を確認する。		
お父さんの気持ちや願いを想像しよう。		
2 (四)(五)の場면을音読する。	○ 前時の学習内容を思い出させる。「・・・」の部分の音読に気を付けさせる。(間を十分にとる) また、当時の人々の間に、戦争に行くことは喜びであるという風潮があったこと、しかし、実際には無理やり戦争にかりだされた人々が多かったことも軽く触れておく。	
		
写真1 役割音読の様子		
3 (四)(五)の場面の様子をつかむ。	○ 駅のプラットフォームと人ごみ、ゆみ子の家族、コスモスの花の位置関係を板書で押さえる。	
4 (五)の場면을視聴写し、お父さんの気持ちや願いについて話し合う。	○ 視聴写は、教師と児童がいっしょに書き始めて、いっしょに書き終えるよう、書く速さと、その後の書き込みのことを考えて板書する。	
5 お父さんの最後の言葉「・・・」に入る言葉を考える。	○ どこに、どのように咲いていたコスモスなのか、また、お父さんはなぜコスモスを選んだのか、十分に時間をとって考えさせ、話し合わせる。 ○ 二人の意見を出し合い、教師も交えて話し合う	

ことで、人によっていろいろな考え方があることに気付かせる。

- ◎ 想像したことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いたか。



写真2 話し合いの準備の様子

6 「ゆみ子のにぎっている一つの花を見つめながら」「何も言わずに汽車に乗って行ってしまった」父親の気持ちを想像し、発表し合う。

7 お父さんへの短い手紙を書く。

8 次時の学習を確認する。

○ お父さんは、なぜ、ゆみ子やお母さんの顔を見ないで一つの花を見つめていたのか。なぜ、何も言わずに行ってしまったのか。そして、なぜ家族に挨拶さえしなかったのか、ここまでの学習やノートなどを振り返らせながら十分に考えさせる。

○ 2人の意見を出し合い、教師も交えて話し合うことで、人によっていろいろな考え方があることに気付かせる。

- ◎ 想像したことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いたか。

○ 本時に学習し、想像したことをもとにお父さんへの手紙を書かせる。

3 おわりに

本単元での最大の成果は、複式学級による同単元同内容指導により、日頃学年別学習のためできないでいる話し合いや共に表現活動を行う場を多く設定し、児童の考えの深まりを追求していくことができた。また、両学年の児童に直接指導ができ、リアルタイムで評価を行い、指導に生かすことができた。普段、友達との練り合いや役割演技などの活動が行えず、教師と1対1で国語の授業を進めている児童たちは、自分たちだけで想像を広げていく活動に目を輝かせ、「おもしろい。」と感想を述べていた。

小学校学習指導要領解説国語編でも、共通の目標が設定されている3・4年生では、既習漢字の確認さえ注意すれば、無理なく同単元・同内容で「読むこと」の領域の指導が行えると実感した。

本単元を境に、道徳や学級活動等の話し合いにも深まりがでてきた。お互いの意見を聞き合い、同調したり、反論したりして考えを深める楽しさを覚えたようである。また、国語科では、「読むこと」の領域を越え、「書くこと」の領域も同単元同・内容で進める活動を行っている。同じテーマで書いた友達の作品を読み合う活動が複式学級でも行えるようになってきた。

このような2学年同一の単元を開発する場合には、個々の能力等を見極めるとともに、きめ細かく評価することに配慮する必要があると実感した。また、次年度の3・4年生の学習を進める際への詳しい申し送りも必要になってくると思う。

児童の学習負担を減らし、指導の効果を上げるために、今後も単元の開発や評価の工夫を重ねていきたい。

「一つの花」の授業を終えて

今回の「一つの花」の学習では、〇〇ちゃん（3年生児童）といっしょに勉強できました。いつもは、音読も全部一人で読みきれないといけないのに、今回は順番に交代で読んだり、役割を決めて演技しながら音読したりして楽しかったです。役割音読していると、その登場人物の気持ちが自然に分かってくるので不思議だなと思いました。

「・・・」に何が入るか考えるときも、自分の考えをノートに書くだけでなく、〇〇ちゃんの意見と比べることもできました。自分が考えつかないことを考えていて、おもしろいなあと思いました。一人で勉強するよりも、やる気ができました。でも、いつものように待つ時間がないので、1時間ずっと休めず、ちょっとつかれました。

また、いっしょに国語の勉強をしたいです。

資料1 授業後の4年生児童の感想